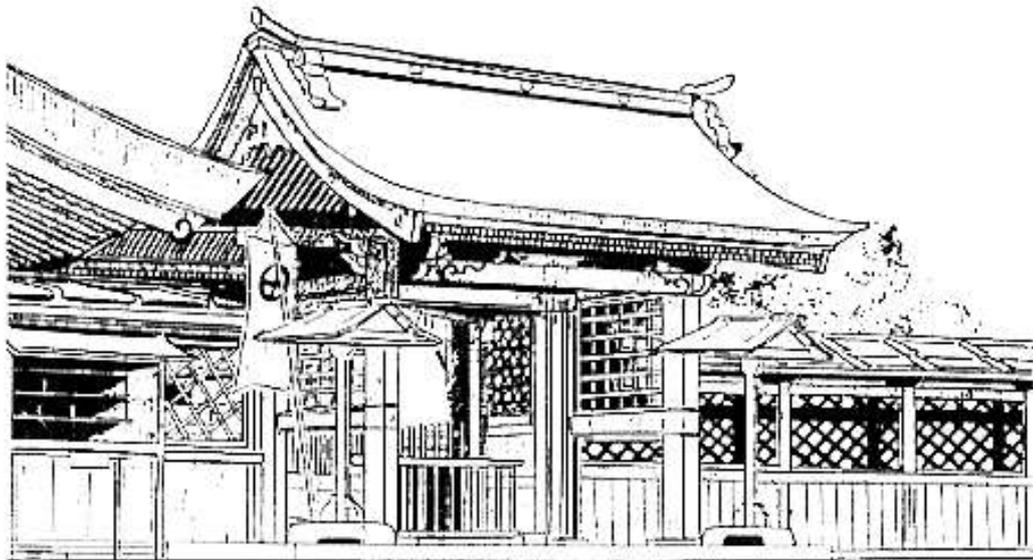


治水神社の 秘密発見!



はじめに

「治水神社の秘密発見！」は、治水神社と宝暦治水の歴史について考える活動です。神社内を歩き、秘密を解く鍵をもとに、子どもたちが自らの考え、答えを導きます。

下の解説をよく読んでやり方を説明すれば、子どもたちは自分たちでどんどん進めることができます。子どもたちが積極的に発見したり考えたりできるように、時には相談に乗ったり一緒に探してみましよう！

治水神社の歴史的・文化的な意味や、周辺の自然のすばらしさをじっくりと味わってください。

1. 活動のねらい

- この活動を通じて、治水神社や宝暦治水の歴史について考えることができます。
- 簡単な絵や文でワークシートに表現することや、発見したこと、感じたことなどを話し合うことで、千本松原の歴史的環境としての存在意義や価値に興味を持ったり、気づいたりします。物の見方や感じ方に関心を持ち、一人一人の考え方や表現の仕方の個性やすばらしさに気づくことができます。

2. 季節と時間

1：季節

一年中いつでもできます。

戸外での活動が気持ちいい季節に行なえば、よりいっそう楽しめるでしょう。

2：所要時間

30分程度でも実施可能ですが、できれば1時間くらいかけてじっくり調べ、考える楽しさを味わってください。

3. 対象年齢と人数

1：対象

小学3年生から大人まで。

- 基本的には誰でもできる活動ですが、歴史的環境に対する考え方や興味・関心の点からすると、小学校3年生以上が望ましいと思われます。
- それより年齢が下の子どもたちや時間がない場合には、項目を選んで活動することもできます。また、大人と一緒にいて困っているときにはアドバイスしてあげるといいでしょう。

2：人数

1人でもできますが、2人以上で相談しながらの活動もできます。

- 6人以上の場合、行動のしやすさから3~4人のグループに分けるといいかもしれません。

4. 用意するもの

<治水神社の秘密発見！>ワークシート
筆記用具

人数分
人数分

※画用紙などの少し厚めの紙に印刷すると、子どもたちは記入しやすいでしょう。また、画板のような下敷きになるものがあれば書きやすいでしょう。行き帰りの子どもたちの行動のしやすさも検討してください。

5. 進め方

①シートの配布・説明

<治水神社の秘密発見！>のワークシートを配り、活動の仕方を説明する。

- ワークシートに書かれたヒントを手がかりに、治水神社の周辺を歩きながら、残された歴史的環境や自然環境を観察し、推測する。
- 考えたことや周辺の環境について、簡単な絵や言葉でワークシートに記録する。

※ 「治水神社には秘密がいろいろあるらしいんだけど、君たちはどれくらい見つけられると思う？」などと問いかけて子どもたちの心をくすぐって発見への意欲をかきたてておくと、よい反応が返ってくるかもしれません。

• 「自分の目で見て自分で考える」

ワークシートのヒントを手がかりにしながらも「まず自分の目で実物をよく見て、自分の頭で考えること」が大切です。

- 子どもたちがじっくり考えて、しっかり書くことができる「時間の余裕」を与えてください。
- どうしても時間がとれない場合は、「全部できなくてもいいから、よく見て自分で考えてから書こう!」と説明してあげてください。

②分かち合い（感想・話し合い）

• 発見できた歴史的環境や自然環境のようす、見て感じたことなどについて話し合う。

- 15分以上が望ましいのですが、少ない時間でも大丈夫です。話し合いをしていただくことが大切です。
- 活動の直後に話し合うことが望ましいですが、場所や時間などがなければ帰りの車中などや帰ってからでもいいでしょう。
- お互いの感じたことや発見したことが自然に出てくる雰囲気を作りましょう。
- 大人の方や先生方はたとえ帰りの時間が迫っていても、笑顔と心の余裕を忘れずに子ども達の言葉を聴いてあげてください。

6. 先生方へ

(1) <歴史的環境>としての千本松原の価値

千本松原県立自然公園に植えられているクロマツは、宝暦の治水工事（1754年～1755年）を成し遂げた後、薩摩藩士が薩摩から千本の「日向松」を取り寄せて植えたものと伝えられ、当時からのものは樹齢二百五十年以上といわれています。

また、治水神社には宝暦治水で工事を行なった平田靱負（ひらたゆきえ）と薩摩藩士たちが祭られています。神社内に多く記されている〇に十文字のマークは薩摩藩の家紋です。3人の像は薩摩義士で、宝暦治水の工事を行なっている様子をあらわしています。神社の周辺にはクスノキや、地元と鹿児島県との交流の記念に植えられた桜など多くの植物が茂り、千本松原ともあわせて鳥や虫など、多くの生き物のすみかとなっています。

このような豊かな松原の自然環境は、宝暦治水という自然の猛威に対する人間の営みの成果や、その犠牲に対する感謝の念から作られ、その社会的必要性によって今日まで残されていますが、近年はマツクイムシによる食害や松原に隣接する県道の交通量の増加による排気ガスなどにより、その環境に影響を与えています。

このプログラムでは、このような歴史的環境における治水神社の価値を、体験的な活動を通して実感することを大きなねらいとしています。

(2) 「低い土地の暮らし」との関連

この活動は「低い土地の暮らし」の学習と深い関連があります。

この単元の学習後であれば、学校で学習したことを思い出しながら、現地でワークシートの設問について考えたり調べたりすることで、体験を通して学習のふりかえりを行なうことができます。

また学習する前であれば、単元の学習の導入としてワークシートに書いたことや体験したことについて話し合ったりしながら、「低い土地の暮らし」について詳しく調べていく動機付けを図ることもできるでしょう。

環境学習教材 C-2 治水神社の秘密発見? ワークシート記入例

<治水神社の秘密発見>

※この答えそのものを求めているわけではありません。いろいろ見て、歴史や自然を感じ、気づき、想像することに、この活動を行う意味があります。

ふしぎなマーク



薩摩藩の家紋です。指導書P 4をご参照下さい。

何本もある木

- ・堤防を植物の根で守るためにたくさんの木を植えた。
 - ・指導書P 4 交流のために桜の木もたくさん植えた。
- 他、いろいろな意見が出てくると思います。

三人の武士

- ・指導書P 4参照 宝暦治水の工事中です。

治水神社はいったい何なのか?何のためにここにあるのか?考えてみよう

- 自由に考えさせて下さい。指導書P 4の様に宝暦治水を行ってくれた薩摩藩士への感謝の証かもしれません。工事を行わざるを得ないで無念の死を遂げた薩摩藩士達への弔いなのかもしれません。歴史に思いを馳せさせて下さい。